

エノキタケ「シナノアーリー（長菌 17 号）」は生育日数が短く、 高温障害の発生が少ない白色品種として有望である

野菜花き試験場

1 技術の要約

エノキタケ「シナノアーリー」は現行品種の「G-5号」に比べ、菌かきから収穫までの生育日数が3~4日短く、1ビン収量も10%以上向上します。また、培養期間中の高温遭遇による生育障害の影響が少ないことから、エノキタケの安定生産に貢献できます。

2 技術の内容

現行品種の多くは、培養期間中にビン間温度が最高値で20℃を超えると、芽出し不良や生育遅延などの障害（通称：高温障害）が発生します。特に、「G-5号」ではこの傾向が強く、時に大きな問題になることもありました。

「シナノアーリー」は現行品種の「G-5号」と比べ、芽出しが良好で、菌かき~収穫までの生育日数を3~4日短縮できます。また、高温に遭遇しても生育遅延などの障害が発生しにくく、芽出しの揃いや収量・品質が安定しています。

慣行栽培における「シナノアーリー」の栽培特性

品種名	芽出し 良否	菌かき~ 収穫 (日)	収 量		品質
			1ビン (g)	標準偏差 (g)	
シナノアーリー	良	23	257	± 6.6	A
G-5号	中	27	230	± 4.9	A

芽出し良否：良・中・否、品質：A・B・C。 栽培容器は58mm口径・850mlPPビン・キャップ使用。
培地はコーンコブ培地（YK2）。



高温培養調査による芽出し良否（上）

子実体生育状況（右）

